



東山代小学校便り

※学校ホームページ



※写真等パスワード
higashi07

2026. 2. 3
文責：中尾

◆「人にやさしく、まじめにがんばる子」

◆「ちがい」を認め合う

早いもので2月に入りました。

3月17日(火)には「令和7年度伊万里市立東山代小学校第79回卒業証書授与式」を挙行いたします。

6年生が、新築校舎の本校から未来へ向かって羽ばたきます。

子どもたちが、生き抜く時代は「多様性の時代」と言われています。

例えば、「多様性」の一部として、性別、年齢、人種や国籍、障がいの有無、宗教・信条、価値観などが挙げられます。

また、「21世紀は人権の世紀」とも言われます。

人は、一人として同じ人はいません。ある意味、一人一人が唯一無二の存在なのだと思います。

1月14日に「人権集会」が行われ、各学級が「多様性」や「人権」に係る学習を通して考えたことを全校で共有しました。各学級の発表を聞きながら、心から嬉しく、そして、子どもたちのことを頼もしく思いました。発表の中にはいくつかのキーワードがありました。それは、「ちがい」「やさしさ」「思いやり」「しあわせ」です。

学校で子どもたちの様子を見ていると、生活経験の少ない子どもたちの方が、思い込みなどがなく「多様性」や「ちがい」を認め合って生活しているのかもしれないと思うことがあります。また、純粋な思いを行動で示す姿に感動することがあります。

例えば、以前、外国にルーツをもつ子どもが在籍している学校に勤めた時に、私たちは電子辞書などを片手に対応していましたが、子どもたちは言葉が通じない中、自然とコミュニケーションをとることができるようにになってきました。

また、本校でも、騒々しい場所が苦手な友だちがいて、つらそうにしていると、そばにそっと寄り添ってくれる子どもがいます。友だちが、集会などで緊張のあまり言葉を発することができなくなって戸惑っていると、そばにそっと寄り添ってくれる子どもがいます。

今年度の「卒業証書授与式」は、このような「『ちがい』を認め合い、支え合う子どもたちの思い」を大切にした式にしたいと考えています。子どもたちの思いに寄り添い、配慮した式にするために、式場の出入りや卒業証書授与などで例年とは違う場面があるかもしれません。

子どもたばかりではなく、私たち大人も、「ちがい」を認め合い、あたたかな雰囲気の中で、卒業生の門出を祝いたいと思っています。

◆将来、子どもたちが人間関係で困らないようにするためにには

「将来、子どもたちが人間関係で困らないようにするためにには」

このことは学校や保護者をはじめ、子どもたちにかかわる全ての大人の課題なのかもしれません。この課題に向き合うために、考えさせられる記事がありましたので紹介します。

将来、子どもたちが人間関係で困らないようにするためにには、幼い頃から良好な人間関係を築く力を育むことが大切です。多様な人とのかかわりの中で、コミュニケーション能力や自己肯定感を高めていくことが、将来の円滑な人間関係につながるでしょう。

1 人間関係で困らないための基礎力

○ 「自己肯定感」の醸成

「自己肯定感」が高い子どもは、自信をもって他者と関わることができます。自分を肯定できると、たとえ人間関係で困難な状況に直面しても、それを乗り越える力がつきやすくなります。

「自己肯定感」とは、自分の存在そのものを価値あるものとして肯定的に受け入れられる感覚を指します。自分の長所だけでなく、短所や失敗も含めて「ありのままの自分」を肯定する心持ちです。この感覚は、子どもの頃に親などから無条件に受け入れられることで育まれるといわれています。「自己肯定感」は、その人の人生に大きな影響を与える重要な心理的基盤です。

○ コミュニケーション能力の向上

人間関係の基本はコミュニケーションです。自分の意見を伝え、相手の話を聞く力は、良好な人間関係を築く上で欠かせません。

2 親ができるサポートと心構え

○ 多様な交流の機会提供

学校だけでなく、地域活動や習い事など、様々なコミュニティで多様な人との交流の機会を提供することで、子どもたちは異なる価値観や考え方につながることができます。これは、問題解決能力や協調性を育むよい機会になります。

○ 自立を促す見守り

子どもの人間関係に過度に干渉せず、適切な距離で見守ることが大切です。時には、子どもが自分の力で人間関係の課題を解決する経験をさせることも、成長には不可欠です。

○ 安定した家庭環境

家庭内で安心感と信頼関係が築かれていると、子どもは社会に出ても対人関係で安定しやすくなります。これは、子どもの「自己肯定感」を育む上でも大きな基盤となります。

3 人間関係に悩んだ時の対処法

○ 必要に応じて距離を取る

もし人間関係で深く悩んでしまった場合は、無理にその関係を維持しようとせず、一時的に距離を取ることも有効な手段です。時には、自分を守るために環境を変える勇気も必要です。